

景観形成の8つのテーマ（取組・配慮事項）

水際空間、緑の連続性を大切にする

- ウォーターフロントの軸線を生かした地区、街区の計画とする。
- 内港地域全体で一体感のある色彩や形態意匠を誘導していく。
- 水際の建物による圧迫感を軽減するよう、効果的にオープンスペースや緑地を配置する。

水際空間を魅力的にする

- 港を感じられる設えを積極的に整備していく。
- 水への映り込みを意識し、魅力ある夜間景観を創出していく。
- 人が快適に歩行し、「留まる」ことのできる空間を積極的に創出していく。

眺望点、船上からの景観を意識し、魅力ある景観を創る

- 複数の眺望点からの見え方に配慮した形態意匠を検討する。
- ゆとりを持った配置とし、建て詰まった印象となることを防ぐ。
- 中景～遠景となる船上や対岸からの景観に配慮し、建物による美しいスカイラインの形成や群としての色彩誘導を行う。

眺望点を大切にする

- 新たな眺望点を積極的に生み出していく。
- 眺望点を広く認知してもらうよう周知、PRを行っていく。
- 眺望点からの景観だけでなく、眺望点そのものの整備を推進していく。

新しい都市と歴史あるまちなみの景観を生かす

- 地区の記憶を伝える要素の把握と保全活用に努める。
- 地区の個性やストーリーを積極的に発信していく。
- 新しい建物などについても地区の歴史や文化を踏まえ、継承するよう計画する。

港を形成する多彩な景観要素を守り、創り出す

- 景観要素が引き立つよう、周辺の施設についても色彩や照明などに配慮する。
- 産業景観や工場群による夜景などを積極的に発掘していく。
- 希少な自然要素である山手地区の斜面緑地を引き続き保全していく。

地区ごとの特徴に応じた景観を創る

- 地区の個性に基づいた景観形成方針を定め、整備を行う。
- 地区の目標等に応じて、効果的な景観形成施策を検討する。
- 地区どうしの景観が調和したものとなるよう、隣接する地区にも配慮した計画とする。

市民が港を感じ、活動し、近づける空間を増やす

- 市街地から港へ向かう軸を設け、見通しや風の道を創出する。
- 水際・海上空間を活用した実験・取組を積極的に推進していく。
- 都市部において、港を感じることが出来るオープンスペースを積極的に創出していく。

今後の展開

- 1 -

内港地域全体を
対象とした誘導

- 2 -

既存施策
・計画の検討

- 3 -

新たな土地利用
転換を行う際の
配慮

- 4 -

ハード・ソフトの
両面で推進する
景観形成

美しい港の景観形成構想（概要）

本構想は、「美しい港」をテーマに、横浜市が内港地域の景観形成を行っていくうえでの目標像や方針をとりまとめたものです。今後、新たに土地利用の転換などが行われる際の景観面からの配慮や、現在の取組効果や課題の検証などを行う際に、「美港」を形成するための基本的なツールとして活用していきます。

～ 目標像：世界に誇る「美港」横浜～

6つの特徴

構造・地域特性

- ・水域を陸域が包み込むリング状の構造
- ・用途や景観要素の異なる多様な地区

景観を形成する主な要素

- ・新旧の建物が一体となった街並み
- ・大規模な倉庫群やクレーンなどの産業景観

歴史・文化

- ・工業、貿易港としての発展と市街化の進行
- ・異国情緒あふれる都市としてのイメージ

眺望点

- ・高さや位置の異なる多様な眺望点が存在
- ・眺望点が同時に景観要素にもなる

景観形成に関する取組

- ・内港地域全体を対象とした緩やかな色彩誘導
- ・ハード・ソフト両面からの市街地空間形成

賑わい

- ・水際のオープンスペースを活用した取組
- ・形成されつつある「生活の場」としての港

4つの視点

リング状の港の構造を生かした 景観の形成

内港地域は、内水面を様々な特徴を持った地区がリング状に取り囲んでおり、この構造によって他都市にはない横浜の港らしい特徴的な景観が形成されています。この特徴を生かしてさらに魅力的なものとしていくため、都心部に隣接した豊かな水辺の環境を市民が利用できるまちづくりを進めるとともに、地区ごとの機能や景観がリング状につながる都市構造の形成を目指します。

横浜らしい特徴的な 景観の形成

内港地域は形成過程や歴史の異なる、様々な特徴を持った地区から成り立っています。また、建造物や緑地、人々の賑わいや夜景など、見る場所や時間によって異なる多彩な景観要素が存在しています。これら横浜のイメージを形づくる地区や景観要素を大切にしつつ、新たに生み出していくことで、他にはない横浜の港らしい景観を形成していきます。

誰もが美しさを感じる 景観の形成

内港地域における「誰もが美しいと感じる景観」とは、港自体が有する機能の美しさと都市の風景が一体となり、さらにこれらの景観をより魅力的に見せる「要素」を有していることと言えます。「海」「港湾機能」「都市」「緑」「空」「船」などが一体的に美しく見えるよう、統一感のある色彩や形態の誘導を行い、それらを見守る眺望点や快適な歩行者空間を積極的に守り、創っていきます。

人々の生活・活動による 賑わい景観の形成

内港地域では、都心部を中心に港と都市機能が融合し、市民に開かれた水際線が形成されています。また、様々な種類の船や、活発な物流機能や生産機能も港の賑わい景観を形成する重要な要素です。人々の営みによって生み出される景観を内港地域における重要な景観要素としてとらえ、賑わいの創出に向けた取組を積極的に推進していきます。



施設の足元に効果的に配置された緑地（大黒町）



港を感じられる水際のオープンスペース（象の鼻パーク）



船上からの眺望に配慮した建物のスカイライン（みなとみらい21地区）



船や海、都市を一体的に望むことのできる眺望点（大さん橋）



近代的な都市と歴史的建造物が一体となった景観（臨港線プロムナード）



対岸からの景観に配慮した色彩の産業施設群（大黒町）



歴史や用途の異なる地区が隣接して形成される景観（万国橋）



シーバスによる水上交通（帷子川河口）

内港地域の景観を形成する主要要素

- 凡例
- 港の景観を構成する要素
 - 歴史的建造物
 - 眺望点
 - 公園・緑地など

プラントや物流施設などによる大規模な産業景観

煙突やタンクなどによる特徴的な景観

高速道路や倉庫上屋によって生み出される産業景観

海上からの眺望

海上からの眺望

ガントリークレーンや倉庫上屋による港らしいダイナミックな景観

歴史的建造物と高層建築物が一体となった景観



ハマウイング



シーバス



ランドマークタワーとクイーンズタワー



水際線の緑地とインターコンチネンタルホテル



マリントワーと氷川丸



倉庫上屋



化学プラント



貯油タンク



横浜火力発電所



大黒大橋



横浜ベイブリッジ



ガントリークレーン

